

定期作況報告

(第4号 平成16年8月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

7月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々2.7、1.3 高かった。降水量は平年より43 少なく、平年対比37%であった。降水日数は平年より4日少なかった。日照時間は平年より16.7時間多く、平年対比137%であった。夏日（最高気温25 以上）は10日間で、そのうち真夏日（最高気温30 以上）は5日間であった。

8月上旬：最高気温および最低気温は平年より各々4.5、4.4 高かった。降水量は平年より44 少なく、平年対比6%であった。降水日数は平年より4日少なかった。日照時間は平年より2.4時間少なく、平年対比94%であった。10日間すべて夏日で、そのうち真夏日は6日間であった。

8月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.9、1.7 低かった。降水量は平年より6mm 多く、平年対比116%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より15.6時間少なく、平年対比68%であった。夏日は4日間であった。

7月下旬から8月下旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	29.4	26.7	2.7	30.3	25.8	4.5	23.5	25.4	1.9	27.8	26.0	1.8
最低気温()	18.7	17.4	1.3	21.3	16.9	4.4	14.7	16.0	1.3	18.3	16.8	1.5
平均気温()	24.1	21.6	2.5	25.4	21.1	4.3	18.6	20.3	1.7	22.7	21.0	1.7
降水量()	25	68	43	3	47	44	43	37	6	71	152	81
降水日数(日)	2	6	4	1	5	4	5	4	1	8	15	7
日照時間(h)	62.3	45.6	16.7	41.0	43.4	2.4	32.4	48.0	15.6	135.7	137.0	1.3

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稻 : やや良

事 由：止葉期以降の生育は好天に恵まれ順調で、出穂期は各品種・苗とも平年より3日早かった。穂揃いは良好で穂揃い日数は各品種・苗とも平年に比べ1~2日短かった。最終止葉葉数は平年並かやや少なかった。

稈長は各品種・苗とも4~6cm程度短かった。穂長は成苗「きらら397」が平年よりやや長かったものの、中苗の「ほしのゆめ」「きらら397」はやや短かった。最高分けつ期における茎数は平年よりやや少なかったものの、有効茎歩合が高かったため 当たり穂数は各品種・苗とも平年並となった。

障害型不稔の発生が認められないこと、穂揃いが良かったことおよび出穂、開花後の天候が良好であり8月20日現在の生育が進んでいることから登熟歩合が高くなることが予想される。

以上より、目下の作況は「やや良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	出穂期(月・日)			穂揃い日数(日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	7.25	7.28	3	4	6	2
ほしのゆめ 中苗	7.24	7.27	3	5	6	1
きらら397 成苗	7.22	7.25	3	5	7	2

注1)平年値は平成9~15年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて早(出穂期)あるいは短(穂揃い日数)を示す。

表3 8月20日現在の本田生育

品 種 苗	最終止葉葉数(枚)		
	本年	平年	比較
きらら397 中苗	11.0	11.4	0.4
ほしのゆめ 中苗	10.0	10.7	0.7
きらら397 成苗	11.0	11.1	0.1

品 種 苗	稈長()			穂長()			穂数(本/)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)
きらら397 中苗	61.7	67.7	6.0	16.1	16.7	0.6	687	708	21	97
ほしのゆめ 中苗	66.2	72.4	6.2	15.6	16.4	0.8	765	766	1	100
きらら397 成苗	62.2	66.5	4.3	17.2	16.5	0.7	734	730	4	101

注1)平年値は平成9~15年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて減を示す。

2) 秋まき小麦： やや良

事由：「タイセツコムギ」の成熟期は、「ホクシン」と同様に平年より3日遅かった。倒伏の影響で両品種ともリットル重、千粒重が平年より軽く、品質はやや劣った。しかし、穂数が平年よりかなり多く、子実重は「タイセツコムギ」で平年比111%、「ホクシン」で121%と多収であった。

したがって、作況はやや良である。

表4 秋まき小麦の収量

品 種 名	成熟期(月日)			リットル重 (g)			千粒重(g)			穂数(本/)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
タイセツコムギ	7.23	7.20	3	743	774	31	35.2	40.1	4.9	625	527	98
ホクシン	7.18	7.15	3	762	781	19	34.1	38.2	4.1	676	593	83

品 種 名	総 重 (kg/10a)			子 実 重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ	1582	1301	281	608	548	60	111	100	11
ホクシン	1758	1365	393	677	558	119	121	100	21

注1) 平年値は、前7か年中、平成9年、14年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

3) とうもろこし： 平年並

事由：7月下旬以降も高温に経過したため生育は進み、抽雄期は平年より4日、絹糸抽出期は平年より3～6日早かった。8月上旬は干ばつの影響を受けたため、前期まで平年を上回っていた草丈および出葉数は、ほぼ平年並みとなった。

したがって、目下の作況は平年並である。

表5 8月20日のとうもろこしの生育

品種名	抽雄期(月日)			絹糸抽出期(月日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
キタユタカ	7.20	7.24	4	7.26	7.29	3
P3732	7.26	7.30	4	7.31	8.6	6

品種名	草丈(cm)			出葉数(枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
キタユタカ	281	283	2	17.5	17.7	0.2
P3732	323	314	9	18.6	18.9	0.3

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

4) 大豆： 平年並

事由：主茎長、主茎節数、分枝数は平年を若干下回っているものの、着莢数は平年並である。8月中旬まで高温に推移したため、莢の登熟は進んでいる。
したがって、目下の作況は平年並である。

表6 8月20日の大豆の生育

品 種 名	主 茎 長 ()			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	59	62	3	9.8	10.3	0.5	7.0	7.7	0.7
トヨコマチ	61	65	4	10.8	11.0	0.2	5.8	7.0	1.2

品 種 名	着 莢 数 (個/株)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	85	86	1
トヨコマチ	76	76	0

注1) 平年値は、前7か年中、平成9年(最豊)及び平成14年(最凶)を除く5カ年の平均値。
2) は平年より減を示す。

5) 小豆： 不 良

事由：開花期は平年より5日～6日早まった。7月下旬以降の気温が高く、更に8月上旬には最高気温30度以上の日が続いたため、高温障害と考えられる着莢の停滞が観察された。加えて、8月第3半旬までほとんど降雨がなかったため、土壌は干ばつとなり、8月第2半旬頃から下葉の黄化が始まり、粒の肥大は停滞した。高温干ばつ傾向のまま登熟は進み、サホロショウズでは平年より16日早く成熟期を迎えた。「エリモショウズ」も既に熟莢が観察されており、平年より10日程度早く成熟期を迎えると推察される。予備的に調査した着莢数は、両品種とも平年より少ない傾向にあり、登熟期間が平年よりも大幅に短いため、百粒重は平年よりかなり軽くなることが予想される。
したがって、目下の作況は不良である。

表7 8月20日の小豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)			成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	7.15	7.21	6	8.19	9.4	16
エリモショウズ	7.18	7.23	5	(未達)	9.9	-

品 種 名	主 茎 長 ()			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	61	60	1	11.5	11.0	0.5	5.2	6.0	0.8
エリモショウズ	60	58	2	12.4	11.9	0.5	5.1	6.1	1.0

注1) 平年値は、前8か年中、平成14年(最豊)、平成11年(最凶)及び平成12年(参考)を除いた5か年の平均値。
2) は平年より早、 は平年より減を示す。

6) ばれいしょ： 良

事由：「男爵いも」では、7月下旬に倒伏が始まり、現在ほとんどの株が倒伏している。8月中旬になり、葉は枯凋が進行し、茎は黄化している。「農林1号」では、前期同様、茎長は平年をやや上回っている。

過去4年間の試し掘りの結果と比較すると、株当たり上薯数は並み～2個多く、10a当たり上薯収量は20%近く多く、澱粉価も1%程度高い。
したがって、目下の作況は良である。

表8 8月20日のばれいしょの生育

品種名	茎長(cm)		
	本年	平年	比較
農林1号	82.0	79.5	2.5
男爵いも	-	-	-

注1) 平年値は、前6か年の平均値。

7) てんさい： 平年並

事由：8月中旬以降、干ばつの影響で生育が停滞するとともに、下位葉の黄化、枯凋が散見された。このため生葉数は平年よりやや少ないが、草丈は平年並みであり、根周は平年をやや上回っている。

したがって、目下のところ作況は平年並である。

表9 8月20日のてんさいの生育

品 種 名	草丈(cm)			生葉数(枚/株)			根周(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
モノホマレ	59.7	60.4	0.7	27.2	29.1	1.9	30.6	29.1	1.5

注1) 平年値は前7か年中、平成11年、15年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。